

## 目次

内科学総論	1
<b>第1章 説明と同意</b> (北川 均)	3
1-1 疾患の診断およびその根拠の説明	3
1-2 治療計画と予後の見通しの説明	3
1-3 治療の進め方およびその選択肢の説明	4
1-4 飼い主による治療方針の選択および同意	4
<b>第2章 問診</b> (佐藤れえ子)	6
2-1 問診の位置づけ	6
1. 定義	6
2. 診療の流れ	6
2-2 問診の方法1－個体識別, 飼育環境, 給与食物, 給水－	7
1. 個体識別	7
2. 飼育環境	8
3. 食物と給水	8
2-3 問診の方法2－既往症, 家族歴, 予防歴－	9
1. 既往歴	9
2. 家族歴	9
3. 予防歴	9
2-4 問診の方法3－現病歴－	10
1. 主訴	10
2. 身体各部の病歴	10
<b>第3章 身体検査</b> (片本 宏)	14
3-1 全身的な観察	14
3-2 バイタルサイン, 体重, ボディコンディションスコア	14
3-3 頭部, 眼, 口腔, 鼻, 頸部	17
1. 頭部	17
2. 眼	17
3. 口腔	18
4. 鼻	18
5. 頸部	18
3-4 体表リンパ節, 皮膚および皮下, 胸部, 腹部	19
1. 体表リンパ節	19
2. 皮膚および皮下	20
3. 胸部	20
4. 腹部	21

3-5 外部生殖器, 筋肉・骨・関節, 神経系	22
1. 外部生殖器	22
2. 筋・骨格・関節	22
3. 神経系	22
<b>第4章 診療記録</b> (滝口満喜)	25
4-1 記載項目	25
4-2 問題志向型システムと問題志向型診療記録	25
1. 基礎データ	25
2. 問題リスト	25
3. 初期計画	26
4. 経過記録	26
<b>第5章 臨床検査</b> (滝口満喜)	27
5-1 血液検査	27
1. 全血球算定	27
2. 血液生化学検査	27
5-2 尿検査	27
1. 採尿方法	27
2. 理化学的検査	28
3. 尿沈渣	28
5-3 糞便検査	28
1. 一般性状検査	28
2. 化学的検査	28
3. 顕微鏡検査	28
5-4 体腔液検査	29
1. 一般性状検査	29
2. 細胞診	29
5-5 生検	29
1. スタンプ	29
2. 細針吸引	29
3. コアneedle生検	30
5-6 微生物検査	30
<b>呼吸循環器病学</b>	31
<b>第1章 呼吸器の構造と機能, 呼吸器疾患の症状</b> (日笠喜朗)	33
1-1 呼吸器の構造	33
1. 基本構造	33
2. 微細構造	34

3.	肺循環と気管支循環	35
1-2	呼吸器の機能	36
1.	呼吸筋と呼吸運動	36
2.	肺の換気量	36
3.	肺・胸郭系の圧と容積関係（コンプライアンス）	36
4.	肺胞におけるガス交換	36
5.	肺の換気と動脈血液ガス・酸-塩基平衡	37
6.	呼吸運動の調節	37
7.	血液による酸素と二酸化炭素の運搬	38
1-3	呼吸器疾患の症状と検査法	38
1.	気道と肺の防御機構	38
2.	気道と肺の代謝機能	39
3.	鼻漏	39
4.	咳嗽	40
5.	呼吸様式	40
6.	呼吸困難	41
7.	正常呼吸音と異常呼吸音（副雑音）	41
8.	胸部打診	41
<b>第2章</b>	<b>上部気道疾患【アドバンスト】</b> (山谷吉樹)	<b>43</b>
2-1	上部気道の感染性疾患	43
1.	猫のウイルス性上部気道感染症	43
2.	細菌性鼻炎	43
3.	真菌性鼻炎	44
2-2	上部気道の非感染性疾患	45
1.	短頭種気道症候群	45
2.	アレルギー性鼻炎	45
3.	鼻腔内腫瘍	46
4.	鼻腔内異物による鼻炎	46
5.	喉頭麻痺	47
<b>第3章</b>	<b>気管と気管支の疾患【アドバンスト】</b> (日笠喜朗)	<b>49</b>
3-1	気管・気管支炎	49
1.	気管・気管支炎（犬伝染性気管気管支炎）	49
2.	犬の慢性気管支炎	49
3-2	アレルギー性疾患	50
1.	猫喘息	50
3-3	気管虚脱と気管支拡張症	51
1.	気管虚脱	51

2. 気管支拡張症	52
<b>第4章 肺の疾患【アドバンスト】</b> (山谷吉樹)	53
4-1 肺炎	53
1. 肺炎の分類について	53
4-2 肺炎以外の肺疾患	56
1. 肺水腫	56
2. 肺気腫	57
3. 肺血栓塞栓症	58
<b>第5章 胸腔と縦隔の疾患【アドバンスト】</b> (日笠喜朗)	60
5-1 胸膜滲出と気胸	60
1. 胸膜滲出 (胸水)	60
2. 気胸	61
5-2 縦隔腫瘍と縦隔気腫	62
1. 縦隔腫瘍	62
2. 縦隔気腫	63
<b>第6章 循環器の構造と機能, 循環器疾患の症状</b> (小山秀一)	65
6-1 循環器の構造と機能	65
1. 心臓の構造	65
2. 心筋細胞の微細構造と機能	65
3. 心臓の刺激伝導系	65
4. 心臓に分布する血管と神経	66
5. 心周期に伴う血行動態	66
6. 心機能曲線と心拍出量の調節機序	67
6-2 特徴的な循環器疾患の症状	67
1. 咳	67
2. 頻呼吸・呼吸困難	67
3. 運動不耐性	68
4. 頸静脈怒張	68
5. 腹水・胸水	68
6. チアノーゼ	68
7. 失神	69
<b>第7章 循環器疾患の診断法</b> (北川 均)	70
7-1 聴診	70
1. 聴診方法	70
2. 心音の発生	70

3. 心音異常	70
7-2 生理学的検査	73
1. 心電図	73
2. 心音図	73
3. 心カテーテル検査	73
7-3 画像診断	74
1. 胸部X線検査	74
2. 断層心エコー図	77
<b>第8章 心不全【アドバンスト】</b>	(藤井洋子) 78
<b>第9章 不整脈【アドバンスト】</b>	(藤井洋子) 84
9-1 洞調律	84
9-2 異所性刺激生成異常	84
1. 補充収縮, 補充調律	84
2. 期外収縮	85
3. 上室頻拍, 心室頻拍	86
4. 心房粗動, 心房細動	87
5. 心室粗動, 心室細動	88
9-3 刺激伝導異常	88
1. 洞房ブロック	88
2. 房室ブロック	89
3. 脚ブロック	89
9-4 刺激生成異常および伝導異常の合併による不整脈	89
1. 心室早期興奮症候群	89
2. 洞不全症候群	90
9-5 不整脈に対する治療	90
<b>第10章 先天性心疾患【アドバンスト】</b>	(藤井洋子) 91
10-1 動脈管開存	91
10-2 肺動脈狭窄	92
10-3 大動脈狭窄	94
10-4 心室中隔欠損	95
10-5 心房中隔欠損	96
10-6 ファロー四徴症	97
10-7 三尖弁異形成	97
10-8 僧帽弁異形成	98
10-9 アイゼンメンガー症候群	98
10-10 血管輪異常	98

<b>第 11 章 後天性弁膜疾患【アドバンスト】</b> …………… (小山秀一) ……100	
11-1 犬の僧帽弁閉鎖不全 ……………100	
<b>第 12 章 心筋・心膜疾患【アドバンスト】</b> …………… (小山秀一) ……105	
12-1 心筋症 ……………105	
1. 心筋症の分類と病態 ……………105	
12-2 心筋炎 ……………108	
1. 二次性心筋疾患 ……………108	
2. 心筋炎 ……………108	
12-3 心タンポナーデ ……………109	
1. 心膜液貯留 ……………109	
2. 心タンポナーデ ……………109	
<b>第 13 章 犬糸状虫症【アドバンスト】</b> …………… (北川 均) ……112	
13-1 病態生理および診断 ……………112	
1. 病態生理 ……………112	
2. 診 断 ……………113	
13-2 治療および予後 ……………114	
1. 成虫駆除 ……………114	
2. ミクロフィラリア駆除 ……………115	
3. 対症療法 ……………115	
4. 予防法 ……………115	
<b>消化器病学</b> ……………117	
<b>第 1 章 消化器の構造と機能, 消化器疾患の症状</b> …………… (大野耕一) ……119	
1-1 消化管 (食道, 胃, 小腸, 大腸) の構造と機能 ……………119	
1. 口 腔 ……………119	
2. 食 道 ……………119	
3. 胃 ……………120	
4. 小腸と大腸 ……………120	
5. 肝胆道系 ……………121	
6. 膵 臓 ……………121	
1-2 食欲不振, 多食, 流涎, 嚥下困難・障害, 吐出, 嘔吐 ……………122	
1. 食欲不振 ……………122	
2. 多 食 ……………122	
3. 流 涎 ……………123	
4. 嚥下困難 (障害) ……………123	

5. 吐 出 .....	123
6. 嘔 吐 .....	124
1-3 下痢, メレナ, 血便・血様下痢, 便秘, しぶり, 排便困難, 便失禁 .....	124
1. 下 痢 .....	124
2. メレナ .....	125
3. 血便・血様下痢 .....	125
4. 便 秘 .....	125
5. しぶり, 排便困難 .....	126
6. 便失禁 .....	126
1-4 鼓脹, 腹鳴, 腹部膨満, 腹水, 黄疸 .....	126
1. 鼓腸, 腹鳴 .....	126
2. 腹部膨満 .....	127
3. 腹 水 .....	127
4. 黄 疸 .....	127
<b>第2章 消化器疾患の診断法</b> .....	(遠藤泰之) 129
2-1 糞便検査 .....	129
1. 一般性状 .....	129
2. 寄生虫および原虫 .....	129
3. 細 菌 .....	129
4. その他 .....	129
2-2 臨床病理学的検査 .....	130
1. 血液検査 .....	130
2. 尿検査 .....	130
3. 体腔液の検査 .....	130
2-3 画像検査 .....	130
1. X線検査 .....	130
2. 超音波検査 .....	131
3. 内視鏡検査 .....	131
4. 生 検 .....	131
<b>第3章 口腔・歯科疾患【アドバンスト】</b> .....	(遠藤泰之) 132
3-1 歯周疾患 .....	132
3-2 根尖周囲病巣 .....	132
3-3 口腔鼻腔瘻 .....	132
3-4 乳歯晩期残存(乳歯遺残) .....	132
3-5 破歯細胞性吸収病巣(歯質吸収病巣) .....	133
3-6 猫の歯肉口内炎・咽頭炎 .....	133
3-7 歯原性嚢胞 .....	133

3-8 エナメル質低形成	133
3-9 咬 耗	133
3-10 唾液粘液嚢胞（唾液腺嚢胞・唾液粘液瘤）	133
3-11 軟口蓋過長症	134
3-12 口腔内腫瘍	134
3-13 口蓋裂	134
3-14 咽頭の機能不全	134
<b>第4章 食道の疾患【アドバンスト】</b> （大野耕一）	136
4-1 食道炎，食道狭窄，血管輪異常	136
1. 食道炎	136
2. 食道狭窄	137
3. 血管輪異常	137
4-2 巨大食道症，食道裂孔ヘルニア	138
1. 巨大食道症	138
2. 食道裂孔ヘルニア	139
<b>第5章 胃の疾患【アドバンスト】</b> （大野耕一）	141
5-1 急性胃炎，慢性胃炎，胃排出障害，胃のびらん・潰瘍	141
1. 急性胃炎	141
2. 慢性胃炎	142
3. 胃排出障害	143
4. 胃のびらん・潰瘍	143
5-2 胃内異物，胃拡張捻転症候群，胃の腫瘍	144
1. 胃内異物	144
2. 胃拡張捻転症候群	145
3. 胃の腫瘍	146
<b>第6章 腸の疾患【アドバンスト】</b> （大野耕一）	148
6-1 感染性腸疾患	148
1. ウイルス性腸炎	148
2. 細菌性腸炎	149
3. 寄生虫性腸疾患	150
6-2 吸収不良性，炎症性腸疾患	151
1. 食餌反応性腸症と繊維反応性大腸性下痢	151
2. 抗菌薬反応性腸症	152
3. 炎症性腸疾患	153
6-3 蛋白喪失性腸症	154
1. 蛋白喪失の原因疾患	154



2. 腸リンパ管拡張症	154
6-4 閉塞性腸疾患	155
1. 腸閉塞	155
2. 腸重積	156
3. 腸内異物（特に線状異物）	156
6-5 腫瘍性腸疾患	157
1. 消化器型リンパ腫	157
2. 腸腺癌	157
6-6 便秘，直腸・肛門周囲疾患	158
1. 便秘と巨大結腸症	158
2. 直腸ポリープ	158
3. 直腸脱	159
4. 肛門周囲瘻（肛門周囲フィステル）	159
5. 肛門嚢炎	160
<b>第7章 腹膜の疾患【アドバンスト】</b>	（鳥巢至道） 162
7-1 化膿性腹膜炎	162
7-2 癌性腹膜炎	163
<b>第8章 肝・胆道系の疾患【アドバンスト】</b>	（鳥巢至道） 164
8-1 肝炎およびその他の肝疾患	164
1. 肝 炎	164
2. その他の肝疾患	165
8-2 胆管炎，胆嚢炎，胆石症，胆嚢粘液嚢腫	165
1. 胆管炎	165
2. 胆嚢炎	166
3. 胆石症	166
4. 胆嚢粘液嚢腫	166
8-3 先天性および後天性門脈体循環シャント	167
1. 先天性門脈体循環シャント	167
2. 後天性門脈体循環シャント	167
8-4 猫の肝リピドーシス	168
8-5 肝臓腫瘍，結節性過形成	169
1. 肝臓腫瘍	169
2. 結節性過形成	170
<b>第9章 腺外分泌の疾患【アドバンスト】</b>	（大野耕一） 172
9-1 腺 炎	172
9-2 腺外分泌不全症	173

参考図書	175
正答と解説	177
索引	185